

様式C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成21年 6月 1日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18330195

研究課題名（和文）

社会科系教科における現職教員の授業力向上プログラム作成のための研究

研究課題名（英文）

Program creation of improving capabilities of in-service Social Studies teachers

研究代表者

谷田部 玲生

国立教育政策研究所・教育課程研究センター・基礎研究部・総括研究官

研究者番号 30311137

研究成果の概要：

本研究は、社会科系教科において必要な授業力を明らかにし、授業力向上のための現職教員研修プログラムを作成した。「小学校現職教員用研修プログラム」、「中学校現職教員用研修プログラム」を作成した。さらに、「教育方法多様化プログラム」として8つの研修プログラムを作成した。

作成した研修プログラム、さらには現職教員研修等における社会科授業力向上に有益と考えられる授業ビデオ・指導案等をまとめて、DVDを作成した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,400,000	0	5,400,000
2007年度	5,000,000	0	5,000,000
2008年度	4,100,000	0	4,100,000
年度			
年度			
総計	14,500,000	0	14,500,000

研究分野：社会科教育・公民教育

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：

社会科系教科・授業力・現職教員研修・授業計画力・授業実践力・授業評価力
授業改善力・教師教育

1. 研究開始当初の背景

社会科系教科は、公民的資質の形成を教科の究極目標とし、社会や児童生徒の変化に対応して、学習指導要領を中心に内容等の変更を行ってきた。社会科系教科の現状と課題については、現在中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会社会・地理歴史・公民専門部会において検討が行われ、以下の4点が指摘されている。

- (1) 基礎的・基本的な事項・概念の理解
- (2) 学び方や調べ方、思考力、判断力、表現力等の育成
- (3) 社会的事象への関心や学ぶ意欲、態度の育成
- (4) 現代的諸課題への対応

すなわち、社会科系教科において指導すべき内容および指導方法、両面からの改善が求められていると考えることができる。

社会科は成立以来、諸資料を活用し、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習等児童生徒の主体的な学習を重視すること等が必要であると言われ続けている。しかし、学校段階が上がるほどいわゆる講義型授業が主流となっていることに大きな変化はみられない。

2. 研究の目的

本研究は、社会科系教科において必要な授業力を明らかにするとともに、授業力向上のための現職教員研修プログラムを作成することを目的とする。

- (1) 社会科系教科において必要とされる教師の授業力とその評価法を明らかにする。
- (2) 国内外における社会科系教科の現職教員研修の現状と課題を明らかにする。
- (3) 以上を踏まえ、社会科系教科におけ

る授業力向上のために以下のプログラムを作成する。

3. 研究の方法

本研究では、現職教員研修プログラムを作成を目指して、以下の3点からアプローチを行った。

(1) 授業力分析

授業力についての先行研究調査等により、社会科系教科において必要とされる教師の授業力とはどのようなものか、またその授業力の現状等について明らかにした。

(2) 国内教員研修調査

大学等の社会科系教科教育研究室、教育センター・研究所等の社会科系教科研修担当者、学校現場の社会科系教科主任等を対象としたアンケート・聞き取り調査等により、我が国の社会科系教科現職教員研修の現状を明らかにする。また、各種の研修への参加者を対象としたアンケート調査・聞き取り調査等も実施し、我が国の社会科系教科現職教員研修の現状と課題を調査検討した。

(3) 外国教員研修調査

我が国の社会科系教科の現職教員研修に参考となる諸外国における現職教員研修について調査研究し、具体的な事例等を収集する。具体的には、アメリカ合衆国および大韓民国における教員研修について、現地調査等を行った。

以上を踏まえて、「小学校現職教員用研修プログラム」、「中学校現職教員用研修プログラム」を作成した。さらに、「教育方法多様化プログラム」として8つの研修プログラムを作成した。

4. 研究の成果

前述のように、本研究は、社会科系教科において必要な授業力を明らかにし、授業力向上のための現職教員研修プログラムを作成することを目指した。

そのため、以下の(1)(2)の成果を踏まえて、(3)を行うことを最終目的とした。

- (1) 社会科系教科において必要とされる教師の授業力とその評価法を明らかにする。
- (2) 国内外における社会科系教科の現職教員研修の現状と課題を明らかにする。
- (3) 以上を踏まえ、社会科系教科における授業力向上のためのプログラムを作成する。

まず、社会科系教科において必要な授業力を明らかにすること、現地調査を行いアメリカ合衆国及び大韓民国における現職教員研修の現状等を明らかにすること、アンケート調査により我が国の現職教員研修の現状を分析することなどを行った。また、それらを踏まえて作成した研修プログラムの試案については、大学、教育センター、学校現場等で実験研修等を実施し、研修プログラムの有効性の確認等を行い、改善を重ねた。

その結果、研究成果の核となる「小学校現職教員用研修プログラム」(授業計画力・授業実践力の向上を主眼とした研修プログラムと授業評価力、授業改善・再構成力の向上を主眼とした研修プログラム)、「中学校現職教員用研修プログラム」を作成した。さらに、「教育方法多様化プログラム」として、博物館の利用、地図の読解、教材・資料作り、デジタル化された資料の活用、NICE、野外研修「地形と気温の関係」、テスト問題づくり、教科書の活用の8つの研修プログラムを作成した。

作成した研修プログラム、さらには現職教員研修等における社会科授業力向上に有益と考えられる授業ビデオ・指導案等をまとめて、DVDを作成した。作成したDVDは、社会科系講座がある国立大学教育系学部等、都道府県・政令都市の教育センター等に配布して、それぞれが実施する研修講座、教員免許更新講習等での有効活用を依頼した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

渡部竜也「わが国の初等・中等社会科教員養成の実態に関する基礎的研究Ⅰ—大学主催の10年次研修の実態から見るわが国の教員養成—」『東京学芸大学紀要 人文科学系』第68集(2007年)

[学会発表] (計4件)

- ①日本社会科教育学会第57回全国研究大会(埼玉大会)、平成19年10月8日、課題研究(5)社会科教育の視点から見た教師の専門性「現職教員研修の現状と課題—アンケート調査の結果から—」谷田部玲生
- ②全国社会科教育学会第57回全国研究大会(宮崎大会)、平成20年10月26日、自由研究発表「デジタルコンテンツの有効活用を目指した授業力向上教員研修に関する研究」桑原敏典
- ③全国社会科教育学会第57回全国研究大会(宮崎大会)、平成20年10月26日、自由研究発表「授業力向上研修プログラムに関する研究(1)—小学校現職教員対象指導マニュアルの開発を通して—」○谷田部玲生、三浦軍三、工藤文三、棚

橋健治、桑原敏典、永田忠道、○駕原進、
渡部竜也

- ④全国社会科教育学会第 57 回全国研究大会
(宮崎大会)、平成 20 年 10 月 26 日、自
由研究発表「授業力向上研修プログラム
に関する研究(2-中学校現職教員対象
指導マニュアルの開発を通して)」

○谷田部玲生、三浦軍三、工藤文三、棚
橋健治、桑原敏典、永田忠道、駕原進、
○渡部竜也

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷田部 玲生

国立教育政策研究所・教育課程研究セン
ター基礎研究部・総括研究官

研究者番号 30311137

(2) 研究分担者

下野 洋

星槎大学・共生科学部・教授

研究者番号 30142631

三浦 軍三

宇都宮共和大学・シティライフ学部・教
授

研究者番号 00109141

棚橋 健治

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号 40188355

桑原 敏典

岡山大学・教育学研究科・教授

研究者番号 70294395

工藤 文三

国立教育政策研究所・初等中等教育研究
部・部長

研究者番号 30231096

永田 忠道

大分大学・教育福祉科学部・准教授

研究者番号 90312199

駕原 進

愛媛大学・教育学部・准教授

研究者番号 30335880

渡部 竜也

東京学芸大学・教育学部・講師

研究者番号 10401449